



R3.6.25 国大図協第68回総会研究集会

「ビジョン2025」が目指すもの  
**次期ビジョンに求めるもの**

**大阪大学 附属図書館長 尾上孝雄**  
**理事・副学長 (研究、情報推進、図書館担当)**



# 国立大学を取り巻く状況～ビジョン2020制定時から

## ビジョン2020

2016.6

大学図書館は、今日の社会における**知識基盤（知の支え）**として、記録媒体の如何を問わず、知識、情報、データへの**障壁なきアクセスを可能**にし、それらを活用し、新たな知識、情報、データの生産を促す環境を提供することによって、**大学における教育研究の進展とともに社会における知の共有や創出の実現に貢献**する。

- 知の共有: <蔵書>を超えた知識や情報の共有
- 知の創出: 新たな知を紡ぐ<場>の提供
- 新しい人材: 知の共有・創出のための<人材>の構築

## 電子ジャーナル購読費

出版社の価格は継続的に上昇・契約複雑化

- 各大学の契約価格は限界に到達
- パッケージ解体、購読誌選定
- 機関リポジトリ整備・登録の加速

## オープンサイエンスへの要請

第6期科学技術イノベーション基本計画/  
統合イノベーション戦略2021

新たな研究システムの構築（オープンサイエンスとデータ駆動型研究等の推進）

- データポリシー策定
- 研究データリポジトリ整備

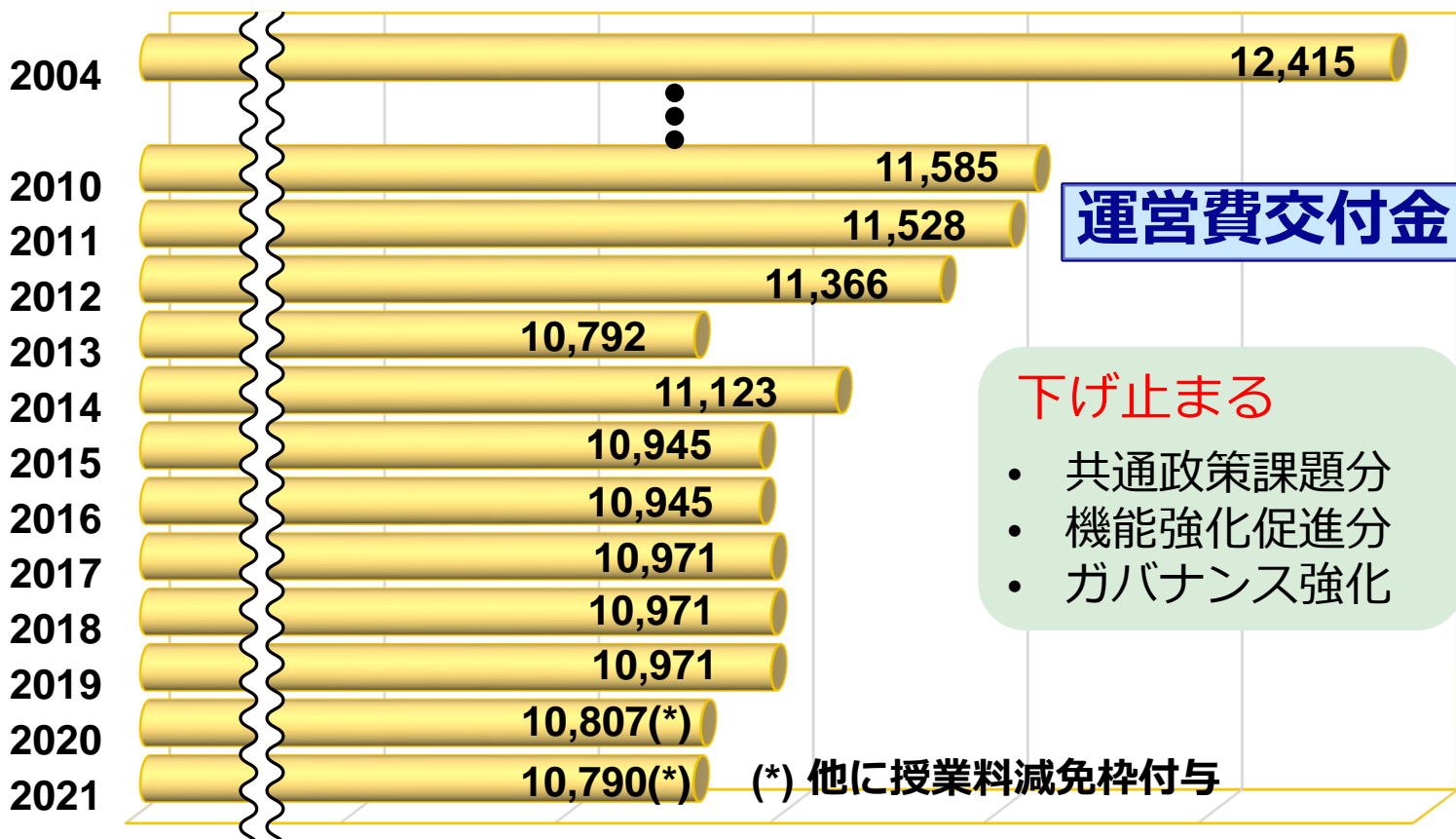
## COVID-19対応

附属図書館運営にも大きな影響

- 蔵書閲覧・貸出業務
- 学習支援業務
- DX・オンラインリソース

## 第4期中期目標期間

- 自律的・戦略的な大学経営
- 社会の様々なステークホルダーとのエンゲージメント
- 社会変革や地域の課題解決を主導



# 関連のさまざまな活動

文部科学省 科学技術・学術審議会や日本学術会議、国大協などでさまざまな審議、検討、報告、提言などが行われてきている

科学技術・学術審議会 情報委員会 ジャーナル問題検討部会

「我が国の学術情報流通における課題への対応について(審議まとめ)」(R3.2.12)

学術情報流通をめぐる状況、対応する問題の解析と課題対応  
(早急に取り組むべき課題、着手すべき課題、検討を開始すべき課題)

科学技術・学術審議会 情報委員会

「コロナ新時代に向けた今後の学術研究及び情報科学技術の振興方策について  
(提言)」(R2.9.30)

コロナ新時代にふさわしい新しい研究様式への転換(大学図書館及び学術情報のデジタル化)

日本学術会議 オープンサイエンスの深化と推進に関する検討委員会

「提言 オープンサイエンスの深化と推進に向けて」(R2.5.28)

データが中心的役割を果たす時代のルール作り、データプラットフォームの構築・普及、など

現在の大学執行部は業務を各々が分担する形となっているが、

**学長以下横断的に対応していく**ことが必要不可欠

第4期における「戦略的な  
大学経営」という観点からも！

では、附属図書館がすべきアクションは？

# 附属図書館に期待していること

- ✓ 国大図協「ビジョン2020」に記されていた内容は現在でも高いニーズがある、**寧ろより強まっている**
  - **知の共有**……………より広がる「オープン」、「デジタル」の加速
  - **知の創出**……………旧来の「学校」から脱却した、新しい「大学」の存在価値を社会に示すさまざまな活動の場の提供、ウィズ/ポストコロナを見据えた環境
  - **新しい人材**……………より広がる活動を担える人材、スキル、専門性、柔軟性

## 附属図書館から大学経営へ！

- 毎年度配分される運営費で「サービスを拡充する」だけでは経営陣は振り向かない
- 附属図書館が今後の大学の浮沈を担う重要なキーピースであることを認識させる理論武装
- 館長を喚起する、図書館担当理事を喚起する、関連理事を喚起する、学長を喚起する